

★ポルトガル語のペア発表について

- ① 黒字と紫字それぞれ担当を決める。
- ② 最後の詩句(緑字)は一緒に言う。
- ③ タイトルと作者は一人または二人で言う。

“Desafio do Trava-Línguas”
César Obeid

Começou nossa peleja
Na arte de improvisar
Eu proponho um convite
Pra ninguém se enrolar
Relembrando trava-línguas
Para a língua não travar.

Então vou te acompanhar
Pois não temo calafrio
Vou mandar versos complexos
Para esquentar o clima frio
Se um de nós travar a língua
O outro vence o desafio.

Então eu viro um navio
E começo a navegar
Sabe aquele sabiá
Que sabia assobiar?
Viu um sapo lá no saco
Com seu papo a pular.

Você disse sem travar
Mas eu vou dizer agora
Alô, o tatu tá aí?
Não, o tatu já foi embora
Ver um gato se esconder
Com o rabo bem pra fora.

「早口言葉の競い合い」
セザル・オベイジ

即興という芸術で
私たちの戦いが始まりました
誰も当惑しないように
私がお誘い申し上げます
舌がもつれないように
早口言葉を思い出します

それでは、あなたにお付き合いします
身震いなんか怖くありませんから
冷たい空気を暖かくするために
複雑な詩句を言いましょ
私たちのうちどちらかの舌がもつれたら
残りの一人がこの競い合いに勝ちます

それでは私は船になって
航海し始めます
ピーピー鳴くことのできる
あのサビアを知っていますか?
あの袋の中で喉袋を膨らませている
ヒキガエルを見たんですよ

あなたはつかえずに言えました
それでは今度は私が言います
もしもし、そちらにアルマジロはいますか?
いいえ、アルマジロはもう行ってしまいました
しっぽを丸見えにして
隠れる猫を見るために

É tão grande sua artimanha
Quanto é grande a cantoria.

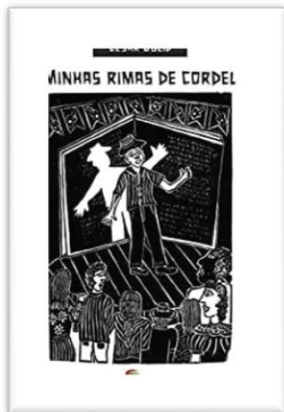
即興詩人の掛け合いが偉大なのと同じくらい
あなたの才能は偉大です

Em nós dois sobra façanha
Pra brincar com poesia.

詩で楽しむ
偉業が私たちにはあります

Nosso verso agora míngua
Pra findar o trava-língua
Adeus, até outro dia.

詩句が無くなりましたから
早口言葉を終わりにしましょう
さようなら、またいつか



In: César Obeid, *Minhas Rimas de Cordel* (2013)
(訳文:江口佳子)

(解説) セザル・オベイジ(1974～、サンパウロ)はコルデルの詩人です。コルデルは、民衆文学の一つのジャンルで、ブラジル北東部が起源です。“細紐”という意味で、露店で紐にぶら下げて売られていることが名称の由来です。詩人オベイジは、課題詩が収められている本の中で、「コルデルとは口承詩であり、口述され、話され、語られるために作られる。[...]ブラジルには、優れた即興詩人が全国にいる」と述べています。

課題詩にある斜体字がポルトガル語の早口言葉です。リズムカルに発声する言葉遊びに挑戦しましょう。サビアやアルマジロという南米大陸の鳥や動物を題材としている点も興味深いです